

平成 21 年度第 2 四半期（上半期）報告 説明資料

朝日生命保険相互会社

平成 21 年度上半期のわが国経済は、輸出や生産が増加し、景気先行きには持ち直しの兆候が見られた一方で、設備投資は引き続き低調に推移する等、依然として下振れリスクを警戒する状況が続きました。このような経済情勢のもと、当社では、主に国内株式の含み損益が含み益に転じたことにより、有価証券の含み損益は大幅に改善いたしました。

依然として厳しい経済環境が続く中ではありますが、当社は、すでにスタートしている中期経営計画「Change（変革と挑戦）」への取組みにより「営業力の強化を通じた収益力の向上」およびリスク管理態勢の強化と収益効率の改善による「安定的な財務体質への改善」を図ってまいります。

1. 業績の状況

- (1) 新契約は前年同期比 93.1%、消滅契約は同 107.6%となりました。保有契約年換算保険料につきましては、前年度末比 98.3%となりました。「第三分野部分」の保有契約は、前年度末比 100.5%となりました。

①新契約

平成 21 年度上半期の新契約年換算保険料（新契約＋転換純増加）は、前年同期比 93.1%となりました。このうち、新規契約については、前年同期比 99.5%、転換純増加については、同 80.2%となりました。

個人保険・個人年金保険の新契約（新契約＋転換純増加）の状況

区分	平成 21 年度 上半期		平成 20 年度 上半期
		前年同期比	
新契約年換算保険料 （新契約＋転換純増加）	155 億円	93.1%	166 億円
うち新規契約	110 億円	99.5%	111 億円
うち転換純増加	44 億円	80.2%	55 億円
うち第一分野部分	79 億円	95.2%	83 億円
うち第三分野部分	75 億円	91.0%	83 億円

②消滅契約

平成 21 年度上半期は、前年同期比 107.6%となりました。

個人保険・個人年金保険の消滅契約の状況

区分	平成 21 年度 上半期		平成 20 年度 上半期
		前年同期比(差)	
消滅契約年換算保険料 (解約+失効+減額-復活)	169 億円	107.6%	157 億円
うち解約・失効契約	148 億円	107.8%	137 億円
解約・失効率(対年度始保有)	2.47%	+0.24%	2.23%

③保有契約

保有契約は、前年度末比 98.3%となりましたが、「第三分野部分」については、前年度末比 100.5%となりました。

なお、「第三分野部分」の保有契約全体に占める割合は、前年度末に比べ、0.6ポイント上昇し 27.4%となりました。

個人保険・個人年金保険の保有契約の状況

区分	平成 21 年度 上半期末		平成 20 年度末
		前年度末比(差)	
保有契約年換算保険料	5,916 億円	98.3%	6,015 億円
うち第三分野部分	1,622 億円	100.5%	1,614 億円
構成比	27.4%	+0.6%	26.8%

(注)

1. 全て年換算保険料ベースで記載しています。
新契約、消滅契約、解約・失効契約、保有契約の年換算保険料については下記のとおりです。
 - ・年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額)。
 - ・「第三分野部分」とは、「第三分野商品」の保険料と、傷害・疾病・介護等のいわゆる第三分野の保障に充当される「特約」の保険料を商品の種類を問わず集計したものの合計です。
2. 「消滅契約」(死亡や満期等を除く)とは、解約・失効、減額、復活(失効から控除)を集計しています。本文中の消滅契約は全て同じ定義として使用しています。
3. 解約・失効率(対年度始保有)の前年同期比欄は、対前年同期増減を表示しています。
4. 保有契約年換算保険料の第三分野部分構成比の前年度末比欄は、対前年度末増減を表示しています。

(2) 営業職員の育成率は、引き続き向上しています。

営業職員の育成率は、前年同期と比べ大幅に向上し、営業職員数も前年同期と比べ増加しました。ご契約の継続率は、引き続き高水準を維持しています。

営業職員の7月目・13月目育成率の状況

区分	平成21年度 上半期		平成20年度 上半期
		対前年同期増減	
7月目育成率	79.3%	+ 3.3 %	76.0%
13月目育成率	59.5%	+ 10.3 %	49.2%

営業職員数の状況

区分	平成21年度 上半期		平成20年度 上半期
		対前年同期増減	
営業職員数	15,125名	+1,011名	14,114名

ご契約の7月目・13月目継続率の状況

区分	平成21年度 上半期		平成20年度 上半期
		対前年同期増減	
7月目継続率	95.2%	△ 0.5 %	95.7%
13月目継続率	91.8%	△ 0.3 %	92.1%

(注)

1. 7月目・13月目育成率は平成21年6月から平成21年10月に判明した育成率の累計値を表示しています。(7月目育成率の対象は、平成20年12月から平成21年4月に採用された営業職員、13月目育成率の対象は、平成20年6月から平成20年10月に採用された営業職員です。) 育成率は、一定の社内基準を満たした営業職員の占率を示しています。なお、平成21年6月から平成21年10月に判明した7月目・13月目の在籍率はそれぞれ82.3% (対前年同期増減+4.3%)、64.3% (対前年同期増減+5.5%) です。(7月目・13月目在籍率の対象は、上記のそれぞれの育成率の対象営業職員と同じです。)
2. 7月目・13月目継続率は平成21年4月から平成21年9月に判明した継続率の累計値を表示しています。(7月目継続率の対象は、平成20年7月から平成20年12月に募集した契約、13月目継続率の対象は、平成20年1月から平成20年6月に募集した契約です。)

2. 収益の状況

(1) 基礎利益は122億円となりました。

①費差損益

費差損益は、保有契約の減少にともない予定事業費が減少したため、前年同期と比べ減少しました。

②危険差損益

危険差損益は、保有契約の減少等により、前年同期と比べ減少しました。

③逆ざや額

逆ざや額は、予定利息は減少したものの、利息および配当金等収入の減少により、前年同期と比べ増加しました。

基礎利益の状況

区分	平成21年度 上半期		平成20年度 上半期
		対前年同期増減	
基礎利益	122億円	△70億円	193億円
費差損益	79億円	△24億円	104億円
危険差損益	494億円	△27億円	521億円
逆ざや額	△451億円	△18億円	△432億円

(2) 経常利益は127億円、中間純剰余は36億円となりました。

経常利益等の状況

区分	平成21年度 上半期		平成20年度 上半期
		対前年同期増減	
経常利益	127億円	△46億円	174億円
中間純剰余	36億円	△81億円	118億円

3. 財務の状況

(1) 有価証券全体の含み益は427億円となりました。

国内株式については前年度末から678億円改善し、62億円の含み益となり、国内債券については145億円増加し、590億円の含み益となりました。外国証券については167億円改善しましたが、370億円の含み損となりました。

有価証券の含み損益の状況【一般勘定】(有価証券のうち時価のあるもの)

区分	平成21年度 上半期末		平成20年度末
		対前年度末増減	
有価証券全体	427億円	+ 1,223億円	△ 796億円
うち国内株式	62億円	+ 678億円	△ 616億円
うち国内債券	590億円	+ 145億円	444億円
うち外国証券	△ 370億円	+ 167億円	△ 537億円
うちその他の証券	145億円	+ 207億円	△ 62億円

(2) ソルベンシー・マージン比率は585.2%、実質純資産額は3,467億円となりました。

ソルベンシー・マージン比率は、前年度末と比べ2.1ポイント上昇し、585.2%となりました。また、実質純資産額は、前年度末と比べ1,218億円増加し、3,467億円となりました。

ソルベンシー・マージン比率の状況

区分	平成21年度 上半期末		平成20年度末
		対前年度末増減	
ソルベンシー・マージン比率	585.2%	+ 2.1%	583.1%

実質純資産額の状況

区分	平成21年度 上半期末		平成20年度末
		対前年度末増減	
実質純資産額	3,467億円	+1,218億円	2,249億円

以上